

会長挨拶

2021年5月22日と23日に早稲田大学で開催されるはずであった日本英文学会第93回全国大会が昨年に引き続きウェブカンファレンスとなりました。「史上初めて」という言葉はコロナ禍が始まって以来しばしば聞かれますが、昨年原田範行前会長が『週刊読書人』で「日本英文学会始まって以来」のウェブ開催という表現をされました。去年はデフォアの『ペストの記憶』が描く一六六五年にロンドンを襲ったペストに現状を準えて、一年は辛抱しなくては、と思ったのですが、ロンドンのペストが終息するまでにかかった一年を今のコロナ禍の期間は軽く越えていて、デフォアがペスト回避の手段として提唱した「自主閉鎖」が昨年来要請されてきたものの、8月現在、巷に不要不急の人は溢れていて、混乱の様相を呈しています。日本英文学会も今が正念場かもしれません。

大会で姿を見せ(ようが)なかった新会長が、書面で挨拶を申し上げるのも憚られるところですが、優秀な原田会長が任期を全うされたことをご報告させていただくと共に、一言失礼いたします。新理事間での会長互選の結果が発表されたとき、大変な名誉を感じると共に私にとっては大きな驚きでもありました。支部体制が整った今、前前会長の佐々木徹先生の就任の挨拶から引用すると「どの支部の会員であれ、“Why not you?”という言葉に直面する可能性がある」ということでしょう。奇しくも私は佐々木先生と同じ関西支部の会員であり、関西から会長が出るのは、石田憲次先生、佐々木先生に次いで

私が3人目ということになります。

至らない身ではありますが、執行部、事務局、各支部の関係者様、会員の皆様のお力を借りて、なんとか2年の任期を全うしたいと思っています。若い頃からお世話になってきた日本英文学会に、微力ながら少しでも恩返しができるかと念じております。

(服部典之)

理事会および評議員会議事録から

日本英文学会事務局を会議本部とするオンライン会議にて、2021年5月21日に理事会および評議員会が開催されました。主要な議案は以下の通りです。

1. 2020年度事業報告
2. 2020年度編集委員会活動報告
3. 2020年度大会準備委員会活動報告
4. 2020年度決算報告
5. 2021年度予算確認
6. 2022年度大会開催校の決定
7. 2023年度大会開催支部の確認
8. その他

*なお上記、事業報告、決算報告、予算、および2021年度事業計画は、詳細を学会ウェブサイト「情報公開」欄でご覧いただけるようになっています。

- 「8. その他」中の主な議案は以下の通りです。
- (1) 2021年度就任の新理事、新監事、新評議員について——以下の方々が紹介されました。

理事8名(任期2年)

瀬田波栄潤(北海道)、川田潤(東北)、原田範行(関東)、阿部公彦(関東)、滝川睦(中部)、服部典之(関西)、今林修(中国四国)、鶴飼信光(九州)

監事2名(任期4年)

丸山修(中部)、横内一雄(関西)

評議員7名(任期2年)

松井美穂(北海道)、大貫隆史(東北)、佐藤和哉(関東)、山本卓(中部)、竹村はるみ(関西)、水野和穂(中国四国)、西岡宣明(九州)

- (2) 代表理事・会長の選出について——定款の定めるところに従い、新理事会において代表理事・会長として服部典之理事(関西支部選出)が互選され、承認されました。また服部会長の指名により、阿部公彦理事(関東支部選出)が副会長に就任いたしました。任期は2023年の全国大会前日までの2年です。

大会準備委員会からのお知らせ

◎委員の交代

本年7月1日をもって藤巻明、麻生えりか、宮原一成、高橋美帆、柳朋宏、齋藤安以子の6氏が任期満了により退任しました。後任には、田代尚路(大妻女子大学)、松本朗(上智大学)、菅野素子(鶴見大学)、上野葉子(活水女子大学)、久米祐介(名城大学)、那須雅子(岡山大学)の6氏が選出されました(任期は各委員とも3年)。委員長は金山亮太氏、副委員長は小林宜子氏です。

◎第93回大会の『大会 Proceedings』について

第78回大会から刊行がはじまった『大会

Proceedings』ですが、一昨年から冊子体での発行を廃止し、ウェブでのみ公開する電子版(PDF版)へと移行いたしました。第93回大会に関しましては、研究発表28件中19件(67%)、シンポジウム発表48件中20件(41%)、特別シンポジウム発表5件中2件(40%)、総発表数81件中41件(50%)の論文をお寄せいただきました。なお、『大会 Proceedings』に掲載される論文は、大会発表の長めの要約という性格のもので、それを大幅に加筆して、別稿として『英文学研究』に投稿もしくは新人賞に応募することが認められています。

また、『大会 Proceedings』の電子版(PDF版)への移行に伴い『支部大会 Proceedings』も、各支部ウェブサイトで開催される電子版に移行いたしました。詳細は各支部の担当者にお問い合わせください。

◎第93回大会で発表された方へ

第93回大会は新型コロナウイルス感染拡大の状況下、急遽大会形式を変更したうえでの開催となったにもかかわらず、すべてのプログラムがZoomあるいはウェブ掲載の形で実施されました。会員外の方を含め、2日間で1000人を上回る申し込みがあり、参加して下さった皆様に心より御礼申し上げます。5月22日から5月30日までの間、学会ウェブサイトで開催しましたGoogle Formによるアンケートにも168件の回答があり、オンライン大会の利点について多くの意見が寄せられております。

なお、著作権等の問題がない場合には、今年度もハンドアウトを学会ウェブサイトにおいて掲載させていただきたく思っております。掲載をご希望の発表者の方はぜひ事務局

(etaikai@elsj.org)に電子ファイルをお送りください。どうぞご協力のほどよろしく願い申し上げます。

◎第94回大会の開催日・開催校等

時 2022年5月21日(土)、22日(日)

所 同志社大学(京都府京都市)

開催校委員 圓月勝博(委員長)、大沼由布、
金津和美、川島健、桐山恵子、
斎藤彩世、下楠昌哉、塚田雄一
支部委員 竹村はるみ(立命館大学・委員
長)、川島伸博(龍谷大学)、竹
山友子(関西学院大学)、友田
奈津子(関西外国語大学)、西
谷茉莉子(京都府立大学)

同志社大学の先生方には大変なお仕事をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また全国大会担当支部である関西支部の方々にも心より御礼申し上げます。大会準備委員会としても、できるかぎりのバックアップを行いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

◎第94回大会のシンポジウム企画の内定

第94回大会で行われるシンポジウムの企画が下記のように内定しました。(敬称略。タイトルの変更の可能性あり。)第1～6部門は大会第1日(5月21日)、第7～12部門は第2日(同22日)にそれぞれ開催される予定です。

第1部門「ポスト・フェミニズム(もしくは第4

波フェミニズム)とシェイクスピア批評」

司会・講師 阪本久美子(日本大学教授)
講師 浜名 恵美(筑波大学名誉教授)
講師 北村 紗衣(武蔵大学准教授)
講師 小泉 勇人(東京工業大学准教授)

第2部門「サイエンスと詩の弁明——ロマン主義文学にみる知の横断」

司会・講師 後藤 美映(福岡教育大学教授)
講師 木谷 巖(帝京大学教授)
講師 大田垣裕子(兵庫県立大学教授)
講師 笹川 浩(中央大学教授)

第3部門「英文学と仕事」

司会・講師 小山 太一(立教大学教授)
講師 南谷 奉良(日本工業大学講師)
講師 永富 友海(上智大学教授)
講師 小野 正嗣(早稲田大学教授)

第4部門「デイスアビリティとケアと現代イギリス文学」(仮題)

司会・講師 木下 誠(成城大学教授)
講師 小川 公代(上智大学教授)
講師 河野真太郎(専修大学教授)
講師 有蘭 真代(龍谷大学専任講師)

第5部門「サー・トマス・マロリー『アーサー王の死』のテキスト変容——印刷・出版・読者の視点から眺める500年の歴史」

司会・講師 不破 有理(慶應義塾大学教授)
講師 徳永 聡子(慶應義塾大学教授)
講師 高木眞佐子(杏林大学教授)
講師 向井 剛(福岡女子大学名誉教授)
コメンテーター 加藤 誉子
(デ・モントフォート大学上級講師)

第6部門「SMT下でのMergeとその補助的操作について——pair-MergeからForm SEQUENCEへ」

司会・講師 大塚 知昇(九州大学助教)
講師 北原 久嗣(慶應義塾大学教授)

講師 野村 昌司(中京大学教授)
講師 林 慎将(九州大学助教)

講師 町田 章(広島大学准教授)
講師 高村 大也(産業技術総合研
究所研究チーム長)

第7部門「文学の潜勢力」(仮題)

司会・講師 新田 啓子(立教大学教授)
講師 三原 芳秋(一橋大学教授)
講師 小林久美子(京都大学准教授)
講師 鶴飼 哲(一橋大学名誉教授)

第8部門「アメリカのモダニズム詩と現代—— 断絶と継続」

司会・講師 平野 順雄(椋山女学園大学教授)
講師 来馬 哲平(青山学院大学准教授)
講師 古賀 哲男(大阪市立大学准教授)
講師 吉田 亞矢(京都大学特定講師)

第9部門「アメリカ文学と植物表象」

司会・講師 舌津 智之(立教大学教授)
講師 伊藤 詔子(広島大学名誉教授)
講師 山本 洋平(明治大学准教授)
講師 高野 泰志(九州大学准教授)

第10部門「後期中英語文学テキストにおける phraseology——形式と表現の可能性」

司会・講師 谷 明信(関西学院大学教授)
講師 西村 秀夫(三重大学名誉教授)
講師 鎌田 幸雄(仙台大学教授)
講師 狩野 晃一(明治大学准教授)

第11部門「方法論の深化は理論研究に何をもち たらすか——自然言語処理と機械学習を 用いた実証的な認知言語学の研究の可 可能性を探る」

司会・講師 大谷 直輝(東京外国語大学准教授)
講師 永田 亮(甲南大学准教授)
講師 野村 益寛(北海道大学教授)

第12部門「英語読解力再考——「英語が読め る」とはどういうことか？」

司会 北 和丈(東京理科大学准教授)
講師 笠原 順路(明星大学教授)
講師 堀 正広(熊本学園大学教授)
講師 柁木 貴之(北海学園大学准教授)
講師 横山 千晶(慶應義塾大学教授)

◎第94回大会招待発表

第94回大会の招待発表講師は次の各氏に
内定しました。(敬称略。50音順。)

岩永 弘人(東京農業大学教授)
黒田 航(杏林大学准教授)
小口 一郎(大阪大学教授)
田中 孝信(大阪市立大学教授)
平林美都子(愛知淑徳大学教授)
藤野 功一(西南学院大学教授)
水野 尚之(京都大学名誉教授)
和田 葉子(関西大学教授)

◎第94回大会の特別シンポジウム企画

第94回大会2日目(5月22日[日])の午後
には、理事会企画の特別シンポジウムとして、
「〈ポスト〉〈ウィズ〉コロナ時代の英語英米文
学研究——デジタル・ヒューマニティーズに
向けて」(仮題)が開催される予定です。詳しくは、
本ニューズレター の「事務局からのお
願い・ご報告」をご覧ください。

◎第94回大会研究発表の募集

第94回全国大会の研究発表を募集して
おります。学会のウェブサイト(<http://www>.)

elsj.org) 上でご確認のうえ、奮ってご応募ください。サイト上のフォーマットを利用して、ウェブから直接応募することが可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは、学会ウェブサイトをご覧ください。応募の締め切りは11月1日(必着)です。

◎シンポジアムのアイデア募集について

シンポジアムのテーマに関する提言は随時受け付けておりますので、事務局(etaikai@elsj.org)までお寄せください。ただし、提案者は参加することはできませんのでご注意ください。寄せられたアイデアはデータベース化し、大会準備委員がシンポジアムを企画立案する際の参考資料として活用します。

◎大会ワークショップについて

第86回大会よりワークショップが導入されておりますが、第94回大会には応募がありませんでした。応募要領は学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org>)に掲載しておりますので、奮ってご応募ください。第95回大会(2023年開催)ワークショップの応募締め切りは、2022年4月末日です。

編集委員会からのお知らせ

◎投稿状況

『英文学研究』は、和文号(12月刊行)、英文号(3月刊行)の年各一冊という刊行形態となっており、それに応じてそれぞれ投稿締切が設定されております。昨年9月1日締切の英文号には18本の投稿論文が寄せられました。また、本年4月1日締切の和文号には17本の投稿論文が寄せられました。

◎第44回新人賞応募状況

第44回新人賞論文の応募受付は、去る4月30日をもって締切となりました。応募論文総数は、4篇(英文学1篇、米文学3篇、英語学0篇)です。応募者の皆様には心より感謝申し上げます。

今年度は1篇の応募論文が第一次銓衡を通過しましたが、慎重な審査の結果、残念ながら、新人賞、佳作ともに該当論文なしということに決定いたしました。全体および各分野の選評は『英文学研究』和文号第98巻に掲載されます。

◎優秀論文賞について

この賞は『英文学研究』(和文号、英文号)に掲載される論文の中から、特に優れた論文に授与されるものです。『英文学研究』第98巻においては、残念ながら「該当論文なし」となりました。

事務局からのお願い・ご報告

◎支部大会資料統合版の刊行中止について

昨年度に引き続き、2021年度の支部大会資料統合版の刊行は中止いたしました。支部大会の開催日程、プログラム等については、本部および各支部のウェブサイトでご確認ください。

◎今年度の大会について

2021年5月22日(土)・23日(日)に早稲田大学にて開催予定であった第93回全国大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での開催を断念し、Zoomを用いたオンライン大会として実施されました。12のシンポジア、1つの特別シンポジアム、20

の研究発表、8つの招待発表が、リアルタイムの配信で行われました(うち1つは大会期間中のウェブ上での原稿掲載による発表)。

リアルタイムでのオンライン大会は、日本英文学会にとって前例のない試みでしたが、開催形態の急遽の変更にもかかわらず、発表者、登壇者の皆様からは充実した研究内容のご発表をいただきました。さらには、参加者の皆様からも、実に興味深く有益なご質問をいただき、第93回大会は盛況のうちに閉幕となりました。

オンライン開催では研究者同士が自由に交流することは難しかったかもしれませんが、会場への移動を伴わないために世界各地から当日会員を含む会員の皆様に参加してくださいました。

登録手続きなどで一部の会員の方々にご迷惑をおかけした点につきまして、お詫びいたします。今回のオンライン大会に関して貴重なご意見をお寄せくださった参加者も多かったですが、さらなるご提言などありましたら、事務局(ejimu@elsj.org)までお寄せください。

準備期間が限られているなかで、オンライン大会のシステムにご対応いただきましたシンポジウム講師・研究発表者の皆様に篤く御礼申し上げます。また、オンライン大会の実現に向けて多大なご尽力を賜った2021年度の大会準備委員会の皆様、関東支部の支部委員の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。さらに、実施はかないませんでした、5月大会に向けて精力的に準備をされていた早稲田大学の開催校委員の皆様にも、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

◎来年度の大会について

すでに学会ウェブサイトでもお知らせしておりますように、来年の第94回大会は2022年5月21日(土)・22日(日)の両日に、同志社大

学キャンパスにおいて開催されることが決定いたしました。開催校をお引き受けくださった同志社大学の皆様に心より御礼申し上げます。

例年、大会初日の夕刻に予定されている懇親会につきましては、残念ながら実施しないこととなりました。

なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、第94回大会も対面での開催を行わない可能性があります。全国大会に関する最新情報は、学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org/>)に掲載されますので、定期的にご確認をお願いいたします。

◎第94回大会における特別シンポジウムについて

第94回大会2日目(5月22日[日])の午後には、理事会企画の特別シンポジウムとして、「〈ポスト〉〈ウィズ〉コロナ時代の英語英米文学研究——デジタル・ヒューマニティーズに向けて」(仮題)が開催される予定です。司会を務める服部典之会長による趣旨は以下です。

コロナ禍によって英語英米文学の教育や研究の形が不可逆的に変わってしまった。ポストコロナの時代が到来しても、決して元の形態に戻ることはないだろう。このことは日本英文学会会員で英語英米文学や英語教育に携わっている方全員が肌で感じられているのではないだろうか。コロナは一つの疫病なので、文学作品で扱われた疫病の物語を検証すると共に、疫病との共存の可能性、または疫病をサバイブする物語から現在の状況への我々の対処の仕方を学びたい。また、コロナで加速された人文学のデジタル化という postdiluvian 的状況をいかに日本英文学会がポジティブに転換できるか、その術を探りたい。

司会は服部が務め、主に Defoe, *A Journal of the Plague Year* に描かれたベスト像や Ishiguro, *Clara and the Sun* に見られる AI と人間が触れあう近未来的デジタル・ヒューマン・インターフェースを論じたい。前会長の原田範行氏には、過去2回コロナ禍の全国大会の運営に悪戦苦闘された体験等から見えたパースペクティブを論じていただきたい。また情報科学に通じつつ英語英米文学研究・教育に関わられている方を人選したいと考えている。

詳細は来春発行の『第94回大会資料』および学会ウェブサイトに掲載いたします。

◎全国大会期間中における託児所の開設について

対面開催となった場合は、開催校のご尽力により、全国大会期間中に、託児業者に委託する形で会場内に託児所が開設される予定です。詳細や申し込み方法等は、決まり次第学会ウェブサイト上で告知いたします。

◎会費納入と刊行物発送について

日本英文学会の2021年度会費は、例年通り、一般会員8,000円(本部会費7,000円+支部会費1,000円、ただし複数支部に加入の場合は1支部ごとに1,000円追加)、学生会員5,000円(本部会費4,000円+支部会費は一般会員に同じ)、協賛会員10,000円です。退会届が出されない限り、会費の納入が滞っても、2年間は引き続き刊行物をお送りいたします。2年度分の会費振込用紙が同封されている方々は、会費滞納が2年目になっています。今年度中に2年度分の会費の納入がなかった場合は、2022年3月末をもって会員資格を失うこととなります。資格を失ったのちも、未納分の会費については支払い義務があり、その分をお支払いいただかない限

り再入会できませんので、ご注意ください。

会費の納入状況が不確かな場合には、メールで事務局(ejimu2@elsj.org)までお問い合わせください。重複して会費を支払われますと、払い戻しなどに余分な手数料がかかっていますのでご注意ください。

会費の納入忘れを避けるためにも、「郵便局自動払込みによる会費引き落とし」のご利用を強くお勧めしております。ゆうちょ銀行に口座をお持ちでしたら、事務局からお送りする書類に記入して、ご返送いただくだけで簡単に利用できます。領収書も、ご請求があれば学会より発行いたします。利用ご希望の方は、メールで、事務局(ejimu2@elsj.org)までご連絡ください。

なお、66歳以上の会員を対象とした終身会員制度を設けております。詳細につきましては、学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org/>)の「入会案内」から「終身会員制度ご案内」をご覧ください。また、メールで事務局(ejimu2@elsj.org)までお尋ねください。

◎会員著書案内について

2012年4月より、会員の皆様から事務局宛てにご著書を献本いただいた場合、学会ウェブサイトにて著書紹介を掲載できるようにしております。著書は会員独自の研究成果に限り、訳書等は対象外とさせていただきます。掲載期間は、出版から2年間です。また、著書案内に掲載された著書については、『英文学研究』編集委員会において書評対象の候補として検討させていただきます。

掲載をご希望の方は、以下の情報を事務局(ejimu@elsj.org)までメールで、WORDの添付ファイルにてお寄せください。

1. 著書のタイトル、出版社、出版年

2. 著書の内容の梗概1,200字程度

3. 目次

この会員著書案内欄には、2021年7月末の時点で24冊が紹介されております。ぜひご覧ください。

◎海外研究者招聘後援事業について

日本英文学会では、2011年6月1日より、日本における英文学研究の国際化促進のために、海外研究者招聘後援事業を実施しています。詳細は学会ウェブサイト (<http://www.elsj.org/>) の「情報公開」から「海外研究者招聘後援事業規程」をご覧ください。同規程に該当する企画をお持ちの団体による応募を歓迎いたします。どうぞふってご応募くださいますようお願いいたします。応募する団体は申請書類を事務局 (ejimu@elsj.org)宛てメールにてお送りください。

◎次回のNewsletterについて

次回のNewsletterは、2022年3月中旬刊行予定の『第94回大会資料』の巻末に掲載される予定です。それまでの間に、大会開催形態を含めてお知らせすべき情報は、随時、学会ウェブサイトに掲載いたしますので、定期的な確認をお願いいたします。

◎その他

本年5月末をもって、前任の武田将明事務局長、川崎明子会計担当補佐、牟田有紀子大会準備担当書記が退任されました。それぞれのご所属大学での研究教育業務が多忙を極めるなか、英文学会の運営に献身的にご尽力いただいたことに感謝いたします。武田事務局長は、予測困難なコロナウイルス感染拡大の状況のもと、つねに冷静沈着な態度で指導力を発揮して大会の実現に向けて適確な判断を示すだけでなく、自

ら連日の膨大な業務をすさまじいまでの勢いと濃やかな心配りで行っていただきました。川崎会計担当補佐は、煩雑な会計業務を完璧にこなされたことに加えて、オンライン大会の際に多大なご貢献を果たしていただきました。牟田大会準備担当書記は、対面開催かオンライン開催かで揺れる事態のなかで、運営、発表者、一般参加者間の連絡業務を一手に引き受けて、目も眩むような量の事務作業を着実に遂行していただきました。なお、ウェブ関連では、小林広直ウェブ管理者の迅速かつ正確なお仕事もオンライン大会の実現には不可欠でした。以上の方々が短期間で練り上げたオンライン大会実施の要領は、英文学会の大きな資産として残されたと言ってよいでしょう。

この交代に先立って、4月より新たに、中村仁紀(事務局長補佐)、侘美真理(会計担当補佐)、小宮真樹子(大会準備担当書記)、の3名が事務局に入り、昨年度の事務局長補佐から事務局長に異動となりました田中裕介、昨年度より引き続き編集担当書記を担当する市川千恵子、ウェブ管理を担当する小林広直とともに、6名の体制で本年度の事務局運営に携わることになりました。任期は来年度の全国大会が終わる5月末までとなります。引き続き2名の有能な事務職員に支えられ、服部典之会長のもと、力を合わせて努めたいと考えております。至らぬ点多々あることかと懸念しておりますが、会員の皆様におかれましては、ご指導・ご協力のほど、どうぞよろしくをお願いいたします。

日本英文学会事務局

田中裕介・中村仁紀・侘美真理・市川千恵子・小宮真樹子・小林広直